

青年海外協力隊による日本紹介・サイエンス・マジックショーの実施

2010年5月18日から21日までの4日間、現在南アフリカ共和国(以下南ア)に派遣されている青年海外協力隊全隊員による共同活動として、派遣先周辺の4つの小中学校を周り、合計で約1100名の生徒を対象に日本紹介授業、サイエンスショー及びマジックショーを行いました。

イベント会場となった4校は、首都プレトリアの東に位置するムプマランガ州のスワジランド国境に程近い町カムシュシュワ周辺にあります。同州では、過去に日本政府による草の根・人間の安全保障無償支援プログラムの協力を得て校舎が建設された公立学校があり、今回訪れたうちの2校はその支援を受けて建てられたもので、現在もきれいに使用されていました。

日本紹介授業では、日本の国旗「日の丸」の意味からはじまり、日本語の挨拶「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」の紹介、そして南アの生徒自ら、筆と墨で「日本」「南ア」「みらい」などを書いてもらいました。日ごろ見慣れない漢字・平仮名・片仮名にもかかわらず、とても上手に書いてくれました。



日本政府の支援で建てられた校舎



習字で「南ア」!

サイエンスショーでは、実際に生徒達に参加してもらい、理科実験の体験を通して科学のおもしろさに気づいてもらえるよう工夫し、静電気を人の輪に通す「百人おどし」や次から次へと色が変わる化学反応などに驚きの声があがりました。

マジックショーでは、さまざまなマジックが目前で繰り返され、とても楽しんでもらえたようです。会場の後ろの方は皆総立ちで食い入るように見つめていました。

南アに派遣されている青年海外協力隊は、隊員が活動している任地周辺の子供たちを主な対象として、教養ある内容を盛り込み、南アと日本の2国間の交流を深めることを目的とし

て、日本紹介・サイエンスショー・マジックショーを開催しています。

今年は日・南ア交流 100 周年に当たることから、交流年ロゴマークを使用し隊員自らデザインした記念シャツを作製してイベントに臨みました。



サイエンスショーの定番「百人おどし」



マジックを集中して見入る生徒たち



マジックの驚きと感動は万国共通



全4日間のうち3日間は木陰で行いました

南アフリカの青年海外協力隊全隊員9名は、リンポポ州で科学館スタッフ(1名)、ムプマランガ州で小学校教諭(1名)、理数科教師(1名)、自動車整備(1名)、電気設備(1名)、PCインストラクター(1名)、コンピュータ技術(1名)、東ケープ州で科学館スタッフ(2名)として活動しています。